

公募等実施事項報告書（資金分配団体）

事業名: 福岡子ども若者、困窮者応援笑顔創造事業
資金分配団体: 一般社団法人SINKa
実行団体数: 3～5団体
実施時期: 2021年4月～2022年3月
事業対象地域: 九州・福岡
事業対象者: ①支援が必要な子ども若者及びその家族②障がい者等社会的孤立リスクの高い層及びその家族

Version 1.0

日付: 2021年6月14日

I. 公募～選定の結果

単位: 件

選定予定件数-計画	申請事業数-実数	申請団体数-実数	選定事業数-実数	選定団体数-実数
3～5	22	22	6	6

II. 公募プロセス/実行団体の募集

募集の告知期間 ※告知開始～募集受付開始 (単位: 日)	募集の受付期間 (単位: 日)	募集の告知媒体の種類							
		<input checked="" type="checkbox"/>	HP	<input checked="" type="checkbox"/>	SNS	<input type="checkbox"/>	チラシ	<input checked="" type="checkbox"/>	関連組織を通じた広報
12	18	<input checked="" type="checkbox"/>	プレスリリース	<input type="checkbox"/>	その他	具体的な方法 ()			
実行団体の募集で工夫したこと、よかったこと ・公募申請時に寄せられた質問について可能な限りHPで公表し、申請者に分かりやすいように努めた。 ・コロナ枠で公募期間を長く取れないため、弊社のネットワークを活用し、九州一円に情報が届くよう努めた。 ・個別相談の時間を多くとり、申請者の疑問等に丁寧に対応した。 ・上記により、地域の課題についてより深く検討された申請内容となった。									
実行団体の募集の課題 ・コロナ枠では広報・公募期間を長く設定しにくい、休眠預金制度を活用したい団体に情報が届きにくい。 ・休眠預金制度そのものの認知度が低く、制度の説明に多くの時間を要した。									
公募に申請した団体の情報を、募集終了時に Web サイト上で公表しましたか。対応状況の詳細と合わせて記載ください。									
はい	https://www.sinkweb.net/2021/05/post-259.html								

III. 公募プロセス/申請団体の審査

単位: 人

審査委員の人数 (合計)	審査委員の内訳	
	内訳:外部委員	内訳:内部委員
4	4	0

審査の過程で第三者の意見聴取等、専門的な意見をどのように取り入れましたか。 ・専門領域が異なる外部委員により構成し、専門的知識を活用する体制を整えた。 ・審査委員には事前に全申請者に対する書面審査及びヒアリングで確認した事項を説明し、1次通過者選定を行った。 ・二次審査では審査員によるヒアリングを行い、申請書の記載事項のみならず事業推進に対する意欲、人柄なども確認した。 ・審査員の評価が割れたが審査員間で結論が出るまで協議を尽くし、実行団体を選定した。
審査を行う者の利益相反の防止措置はどのように行いましたか。 ・審査の依頼にあたり、団体との関係性や、団体役員との個人的なつながりを事前に確認した。 ・幸いに該当しなかったが、もし該当する場合は審査の席から退席いただくことを予定していた。
申請団体のコンプライアンス/ガバナンス体制の確認をどのように行いましたか。 規定類の公開状態をWebで確認、不足する部分については審査の段階で指摘し、回収を行った。 また、不足する部分については、管理実態を面談の中で確認した上、規程への落とし込み予定を確認した。

<p>申請団体との面談(必要に応じて現地調査)はどのように実施しましたか。</p> <p>・可能な限り面談会場での面談を行い、必要に応じてZoomを活用し複数回実施した。</p>
<p>申請団体の審査で工夫したこと、よかったこと</p> <p>・通常面談、オンライン面談で状況を把握し、審査員への事前説明、審査中の確認事項への的確な回答を行った。 また、審査員審査対象団体にZoomでのプレゼンテーションを実施し、書面だけでは確認できない、運営チームの体制、申請書の記載事項のみならず事業推進に対する意欲、人柄なども確認した。</p>
<p>申請団体の審査で感じた課題</p> <p>・コロナ緊急枠という部分もあり公募期間が十分ではなかったかもしれない。実行団体の準備が十分ではなく、事業内容自体のしっかりとした確認や、運営体制が事業推進に十分かどうかやガバナンス・コンプライアンス現況の確認などが不足していた。 ・次回公募する際は、公募・審査の中でブラッシュアップの機会を設定する対応を検討している。</p>

IV. 公募の設計/申請団体数・実行団体の事業内容

<p>(申請団体数) 実行団体選定予定件数に対して申請団体数は想定通りでしたか。その要因と合わせてご記入ください。</p>	
<p>想定より少なかった</p>	<p>公募説明会に参加したものの、様式の多さや申請書の記載の難しさから申請に至らなかった団体が散見された。事業計画の書き方、資金計画の書き方には伴走が必要だと感じた。</p>
<p>(申請団体の事業内容) 設定した社会課題の解決に対して、選定した実行団体の事業内容(目標、対象者、地域、活動、金額、規模等)は想定通りでしたか。その要因と合わせてご記入ください。</p>	
<p>想定と異なっていた</p>	<p>・事業内容の把握に問題はなかったが、事業実施体制面では助成事業未経験の団体も多く、実施面での不安が残った。 ・想定した課題に加えてそれ以外の多様な応募があり、申請を受けた段階から多くの学びがあった。</p>

V. 選定結果の通知及び公開の状況

<p>(選定結果の通知) 実行団体に選定しなかった申請団体に対し、その理由と改善すべき点を示しましたか。</p>	
<p>はい</p>	
<p>(選定結果の公開) 選定結果について、webサイト上で広く一般に公開しましたか。</p>	
<p>はい</p>	<p>https://www.sinkweb.net/2021/06/post-270.html</p>
<p>(規定類の公開) ガバナンス・コンプライアンス体制に関する規程類を、webサイト上で広く一般に公開しましたか。</p>	
<p>はい</p>	<p>https://www.sinkweb.net/2022/05/post-294.html</p>
<p>(人件費水準の公開) 経費に人件費が含まれる場合、当該人件費の水準をwebサイト上で広く一般に公開しましたか。</p>	
<p>はい</p>	<p>https://www.sinkweb.net/2022/05/post-294.html</p>

VI. 公募の過程に伴う事業再検討結果(事前評価)

課題の分析(ニーズの分析)

<p>課題の妥当性: 助成申請時に想定していた課題の分析に対し、変更が発生した部分</p> <p>実行団体とのヒアリングの中で、我々が把握している以上にいわゆる居場所づくりへの多様なカテゴリ・層のニーズが存在していることが分かった。困難を抱える層が安心して集える場所の不足とステークホルダーとの連携の不足が重要なポイントであると分かった。</p>
<p>事業対象の妥当性: 助成申請時に想定していた課題の分析に対し、変更が発生した部分</p> <p>変更なし。</p>

事業設計の分析（セオリーの分析）

事業設定の妥当性：助成申請時に想定していた事業設定に対し、変更が発生した部分
変更なし。

見直し後の事業目標 及び アウトプット指標（実施・到達状況の目安とする指標）/把握方法/目標値/達成時期

今回の事業実行を通じた目標	実施・到達状況の目安とする指標	把握方法	目標値/目標状態
変更なし。			

見直し後の事業実施後（1年後）以降に目標とする状態 及び その目安とする指標（※指標については設定可能であれば、で構いません）

今回の事業実行を通じた目標	目標値/目標状態
変更なし。	

VII. 広報実績（公募関連以外）

広報内容	有無	内容
メディア掲載（TV・ラジオ・新聞・雑誌・WEB等）	無	
広報制作物等	有	プレスリリース
報告書等	無	

VIII. ガバナンス・コンプライアンスの確認

ガバナンス・コンプライアンス体制	状況	内容
1. 社員総会、理事会、評議会は定款の定める通りに開催されていますか。	はい	
2. 内部通報制度は整備されていますか。	はい	
3. 利益相反防止のための自己申告を定期的に行っていますか。	はい	
4. 関連する規程の定めどおり情報公開を行っていますか。	はい	
5. コンプライアンス委員会は定期的に開催されていますか。	はい	定時総会に併せて開催予定
6. 実行団体に規程類の整備について説明をしましたか。	はい	オリエンテーションを実施し説明予定

IX. その他

自由記述（※本項目は外部非公開となります）
九州地域の困っている人、課題は山積しており、各県団体との連携と情報交換をしながら九州地域での資金分配団体を増やすべく活動していく。